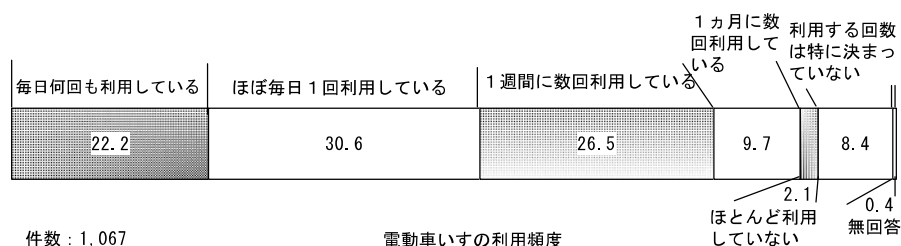


2. 電動車いす利用者の実態

ここで紹介する資料は警察庁からの委託を受け、(財)国際交通安全学会が平成13年に実施したアンケート調査結果の一部である(電動車いす利用者1,211人)。

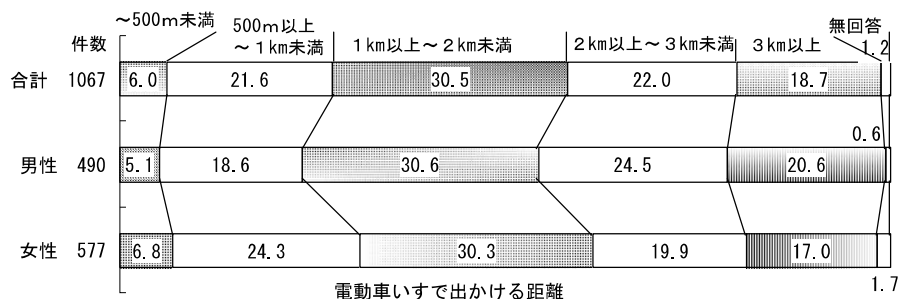
(1) 電動車いすの利用頻度

電動車いすの利用頻度をみると、スクーター(ハンドル)型電動車いすでは、「毎日何回も利用している」と答えた者が全体の22.2%、「ほぼ毎日1回利用している」と答えた者が30.6%となっており、毎日1回以上利用している者が半数を超えている。標準(ジョイスティック)型では当然のことながらそうした利用頻度はさらに高く、毎日1回以上利用している者の比率は76.3%という高さになっている。



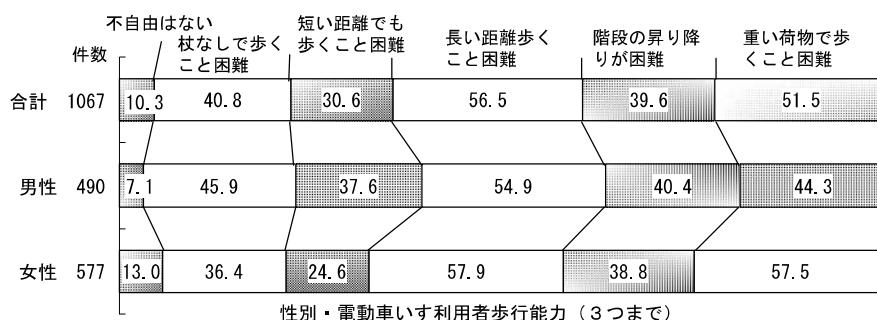
(2) 電動車いすで出かける距離

2キロ未満と比較的家に近い、家の周辺へ出かけているケースが58.1%と過半数を超えていることがわかる。出かける距離を性別の違いで見ると、男性の方がどちらかというと遠方まで出かけるケースが多く、逆に女性は家の近くで利用する傾向があることも理解できる。



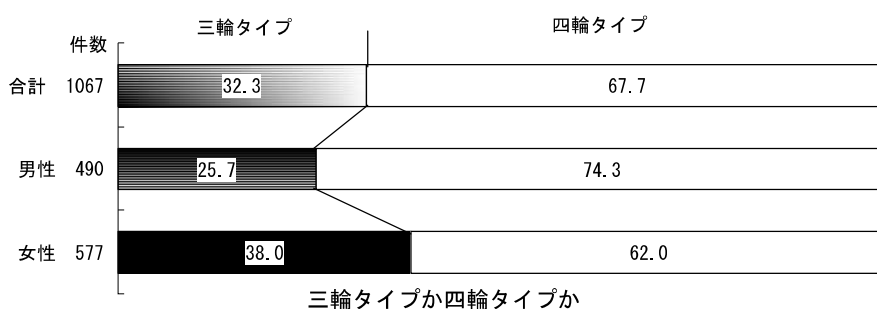
(3) 利用者の歩行能力

電動車いすを利用している高齢者のスクーター(ハンドル)型の歩行能力をみると、利用者全体では「長い距離を歩くことが困難」とする者が一番多く56.5%、「重い荷物を持って歩くのが困難」とする者が二番目に多く51.5%、三番目は「杖などがなくて歩くことが困難」で40.8%、さらに「階段の昇り降りが困難」(39.6%)などとなっている。



(4) 三輪タイプか四輪タイプか

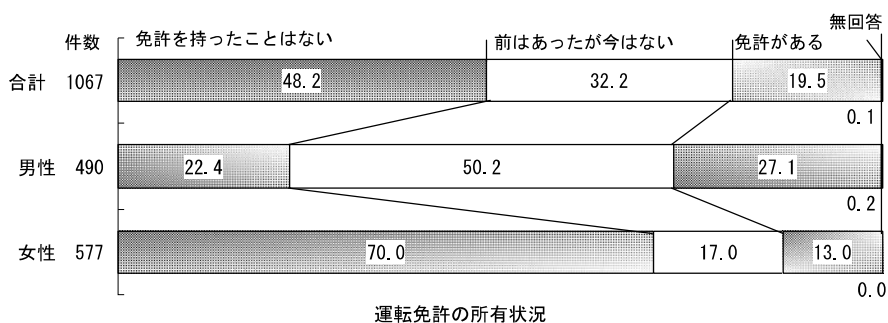
利用者が乗っている電動車いすのタイプ別でみると、四輪タイプの方が多く 67.7%、三輪タイプが 32.3%となっている。



(5) 運転免許の所有状況

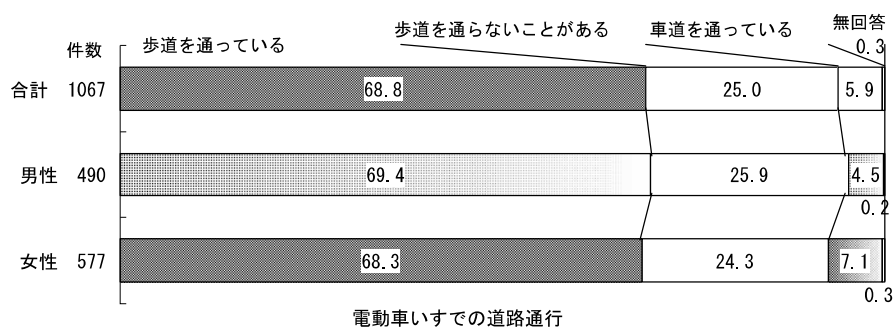
利用者全体では「免許を持ったことはない」と答えた者が半数を割る 48.2%、「前はあったが今はない」とする者が 32.2%、「免許がある」とする者が 19.5%となっている。

注目すべきは、男女による差異が極めて大きくなっている。



(6) 電動車いすでどこを走行しているか

歩道がある場合には「歩道を通っている」とする回答は 68.8%、「歩道を通らないことがある」と「車道を通っている」を合わせると 30.9%となっている。歩道があるのにそこを通らないことのある利用者が 3割となっている。



「電動車いすの安全利用に関する指導・教育プログラムの作成」委員会名簿

委員長 鈴木 春男 千葉大学文学部 教授

(順不同)

委員 兒玉 明 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 会長
大角 良二 財団法人 全日本交通安全協会 常務理事
田中 理 横浜市総合リハビリテーションセンター 企画研究室長
筒井 昭 電動車いす安全普及協会 会長
溝端 光雄 財団法人 東京都老人総合研究所
介護生活基盤研究グループ 室長
小島 幸夫 科学警察研究所交通部 部付主任研究官
矢崎 秀 財団法人 日本車両検査協会 安全技術部長
三木 克行 財団法人 日本交通管理技術協会 理事

オブザーバ 遠藤 顕史 警察庁交通局交通企画課 課長補佐
中原 和雄 警察庁交通局交通企画課 係長

事務局 志賀 一順 財団法人 日本交通管理技術協会
金子 和夫 財団法人 日本交通管理技術協会
星 忠通 株式会社 福山コンサルタント